



令和元(2019)年度

# 海外の事例から人口減少時代におけるまちづくりを考える

人口が減少し、都市空間やコミュニティのあり方も変化する中、人口の動きを適切に把握しながら、まちを再構成していく方法が模索されているところです。

海外でも、社会移動や出生率の低下により人口減少が進む都市や地域がありますが、文化芸術の振興、コンパクトシティ、パブリックスペースの活用等、新たな切り口から都市再生策を行い、地域に関わる人口を増やしている事例が多く見られます。

この研修では、人口減少時代における日本の都市や地域の課題を抽出し、海外事例の考え方や方策を参考に、人が住みやすい、集まりやすい、持続可能なまちをどのように創っていくのか、中長期的な視点から考えます。

## 研修の目標

- 所属自治体の今後の人口動態について理解する。
- 今後の人口状況を見据えたうえで、実態にあったパブリックスペースの活用方法やコミュニティのあり方について考えることができる。
- 海外の事例を参考に、様々な切り口から、持続可能なまちづくりについて、中長期的な政策を展開することができる。

## 開催要領

日程

令和元(2019)年10月16日(水)～10月18日(金)(3日間)

場所

全国市町村国際文化研修所 JR京都駅より湖西線約15分 唐崎駅下車徒歩約3分

対象

まちづくり、都市計画、コミュニティ振興、観光等の業務に携わる市区町村等の職員  
3日間全日程をご受講いただける方を対象とします。途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。

募集人数

30人 募集人数を大幅に超えた場合は、申込期限後に抽選等をさせていただきますので、予めご了承ください。  
なお、受講者の決定については、他の研修、セミナーの申込み・受講の有無にかかわらず、本研修単独で行います。

宿泊

研修所宿泊棟(宿泊型研修) ※外泊はできません。

経費

9,850円 左記金額は、研修、宿泊、食事(朝食2回、昼食2回、夕食2回)、資料等にかかる費用です。  
なお、事前準備・事前学習および最終日の昼食にかかる費用は含まれておりません。

申込期限

令和元年9月6日(金)まで **9月12日(木)まで延長しております。**

申込方法

JIAMホームページ内「研修Web申込みフォーム」からお申し込みください。  
[Web申込み]が難しい場合は、受講申込書によりFAXでも受け付けています。  
※受講申込書はJIAMホームページの書類様式集(<https://www.jiam.jp/doc/>)に掲載しております。

受講決定

受講の可否については、開講日の約1か月前までに通知をお送りします。  
経費納入方法等の手続きについては、受講決定通知書によりお知らせします。

事前課題

研修受講にあたって、事前課題に取り組んでいただく予定です。詳細は受講決定通知書送付時にお知らせします。

● 問い合わせ先 ●

公益財団法人 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(JIAM) 教務部

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号 TEL. 077-578-5932 FAX. 077-578-5906

[e-mail] [kenshu@jiam.jp](mailto:kenshu@jiam.jp) [ホームページ] <https://www.jiam.jp>

令和元年

10月  
16日(水)

11:00 ~ 入寮受付・昼食

12:30 ~ 開講・オリエンテーション

13:00 ~ 15:35

**講義** 人口減少時代におけるまちづくり

名城大学都市情報学部教授 海道 清信 氏

人口減少下において、これからの地域の担い手となる人々が、住みやすい、集まりやすいまちにするにはどのようにすればよいのか、都市とコミュニティのあり方、パブリックスペースの活用など、都市計画の視点からお話しいただきます。

15:50 ~ 17:00

**事例研究** ① ライプツィヒの空き家を活用したまちづくり

NPOライプツィヒ「日本の家」共同代表 大谷 悠 氏

人口約58万人のドイツの都市、ライプツィヒのインナーシティは19世紀後半に工場地区として開発され、従業員用の集合住宅が建てられましたが、その後、東西ドイツが統一され、多くの空き家が生まれました。市がその改善策として空き家の取り壊しを行なって暫定緑地を整備する一方、NPO団体が空き家を新たな芸術・文化活動に仲介し、クリエイティブな空間として再生させてきました。ライプツィヒの空き家を巡って繰り広げられたドラマについて、市・NPO・住民それぞれの立場から整理してお話しいただきます。

17:30 ~ **交流会** 夕食を兼ねて、ともに学ぶ受講者同士の親睦(情報交換・交流)を深めます。

9:25 ~ 10:35

**事例研究** ② 交通まちづくり~ウィーン他の実例を踏まえて

関西大学経済学部教授 宇都宮 浄人 氏

ウィーンは、「アーバン・モビリティ・プラン」という交通計画のもと、公共交通の整備や、空間や環境という資源を有効利用したまちづくりを行っており、世界で一番住みやすいまちといわれています。講義では、このようなウィーンの公共交通や交通計画を紹介いただくほか、オーストリアのその他の中小のまちの事例も紹介いただきます。

10:50 ~ 12:00

**事例研究** ③ コペンハーゲンのパブリックスペースを活用したまちづくり

首都大学東京特任研究員 矢野 拓洋 氏

デンマークの都市コペンハーゲンは、世界最高峰のパブリックスペースで知られています。暴動の多かった地区に、全長700mの公園をつくり、治安を回復させコミュニティを再生させてきました。また、小学校の校庭を広く開放し、児童のほか大人も憩えるスペースにして、コミュニティの形成を行ってきました。これらパブリックスペースを活用した事例を紹介いただきます。

13:00 ~ 14:10

**講義** 人口減少時代の都市空間とコミュニティデザイン

龍谷大学政策学部政策学科教授 服部 圭郎 氏

人口が減少する日本において、海外の事例からどのような点が学べるのか、地域の担い手が活躍できるための都市空間、コミュニティとはどういうものなのか、人口の動きを適切に把握しながら、まちを再構成していく具体的な手法について考えます。

14:25 ~ 17:00

**演習** グループ討議

龍谷大学政策学部政策学科教授 服部 圭郎 氏

だれもが住みやすい、集まりやすいまちづくりの実現に向け、コンパクトシティ、パブリックスペースの活用によるコミュニティの形成、文化振興等をテーマにグループ討議を進めます。

9:25 ~ 12:00

**演習** 発表・講評

龍谷大学政策学部政策学科教授 服部 圭郎 氏

グループごとに考察した内容や討議の成果を発表します。その後、講師より講評等をいただき、人口減少時代におけるまちづくりについてさらに考えを深めます。

12:00 ~ ふりかえり、研修アンケート記入、閉講

令和元年

10月  
18日(金)

### 演習指導講師紹介

龍谷大学政策学部政策学科教授 服部 圭郎 氏

東京大学工学部卒業、カリフォルニア大学環境デザイン学部で修士号取得。民間シンクタンク勤務、明治学院大学経済学部教授を経て、現職。専門は都市計画、地域研究、コミュニティ・デザイン、フィールドスタディ。主な著書に『若者のためのまちづくり』『人間都市クリチバ』『衰退を克服したアメリカ中小都市のまちづくり』『ドイツ・縮小時代の都市デザイン』など。技術士(都市・地方計画)、博士(総合政策学)。JIAM海外研修 平成30年度「人口減少時代における自治体政策～働き方・福祉を中心に～(オランダ・ドイツ)、令和元年度「持続可能なまちづくり(ドイツ・スイス)」指導講師。

● 研修内容については、都合により変更になることがありますので、予めご了承ください。なお、研修についての最新情報は、JIAMホームページをご覧ください。

### JIAMメールマガジンのお知らせ

当研修所では、メールマガジンを発行しています。各研修に関する最新情報などを定期的にお知らせします。ぜひ登録ください。読者登録は、JIAMホームページで受け付けています。